

# 小学生のマット運動における「前転」の習熟レベル

## Skill Level of Forward Roll in Mat Exercise of Elementary School Children

佐藤友樹<sup>1)</sup>, 馬場亮輔<sup>2)</sup>, 大友康平<sup>3)</sup>, 浦野翔太<sup>4)</sup>, 彼末一之<sup>5)</sup>, 土屋純<sup>5)</sup>

<sup>1)</sup>大阪産業大学

<sup>2)</sup>早稲田大学グローバルエデュケーションセンター

<sup>3)</sup>埼玉栄高等学校

<sup>4)</sup>ジョイスポーツクラブ

<sup>5)</sup>早稲田大学スポーツ科学学術院

Yuki Sato<sup>1)</sup>, Ryosuke Baba<sup>2)</sup>, Kohei Otomo<sup>3)</sup>, Shota Urano<sup>4)</sup>, Kazuyuki Kanosue<sup>5)</sup>, Jun Tsuchiya<sup>5)</sup>

<sup>1)</sup>Osaka Sangyo University

<sup>2)</sup>Global Education Center, Waseda University

<sup>3)</sup>Saitama Sakae High School

<sup>4)</sup>Joy Sports Club

<sup>5)</sup>Faculty of Sport Sciences, Waseda University

キーワード: 前転, 技術, 小学生

Key words: forward roll, technique, elementary school children

### 【抄録】

器械運動のマット運動において、前転は基本となる技であり、その発展技には開脚前転や伸膝前転がある。練習時間を多く設けることが難しい学校体育において、開脚前転や伸膝前転を習得していくためには前転を学習する段階でその技術の習熟レベルを高めていくことが重要であるが、それができていない実態があると考えられる。本研究では小学生を対象に前転の技術の習熟レベルについてその実態を明らかにし、今後の器械運動あるいはマット運動の指導に寄与する知見を得ることを目的とした。対象者は、M小学校に通う健常児(2012年:男子197名,女子175名,計372名,2013年:男子215名,女子179名,計394名,2014年:男子216名,女子178名,計394名)とした。評価の対象とした2回の試技について、(公財)日本体操協会公認審判員の資格を持つ者3名が評価を行った結果、前転の運動課題の達成について「できていない」とされる学習者が確認され、「順次接触技術」と「伝導技術」の習熟が必要と推察された。また、順次接触技術の習熟レベルは高い傾向にあるが、伝導技術の習熟レベルは低い傾向にあった。そして、前転の発展技を習得するためには、小学校のマット運動の授業における前転の指導で学習者が伝導技術の習熟レベルを高めていけるような指導が必要であり、それを実現するためには、まず指導する者が前転における伝導技術の重要性を認識しなければならないと考えられた。

スポーツ科学研究, 14, 37-46, 2017年, 受付日:2017年1月19日, 受理日:2017年5月29日

連絡先: 佐藤友樹 〒574-8530 大阪府大東市中垣内3-1-1Wellness2008

Tel: 072-875-3001 E-mail: styk@spo.osaka-sandai.ac.jp